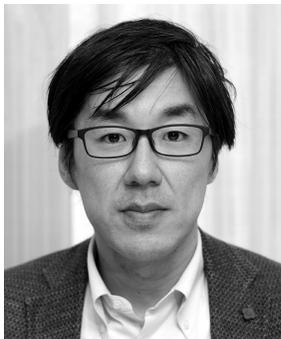


「強い円」はどうして失われたのか

みずほ銀行チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔から
かま
だい
すけ

- *財務省も国際収支に注目
- *円安には日本固有の原因
- *インフレコースに入った日本経済
- *異次元緩和で円安？
- *貿易赤字国となった日本と米利下げ
- *「経常赤字」が円安の真因
- *旅行収支黒字に供給制限
- *心配なデジタルサービス赤字拡大
- *大規模化する「家計の円売り」
- *実は「債権取り崩し国」？



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

今日はひどい雨や風の中をお越しいただきました
ありがとうございます。毎朝金曜日、天候が
悪いと不安にかられるのですが、非常に面白い
テーマなので皆さんお越しいただけると期待し
ておりました。

今日は唐鎌大輔先生にお越しいただきました。
みずほ銀行のチーフマーケット・エコノミスト
をされています。先生はうちから2冊、過去に
本を出していただいて、この『欧州リスク』と
いう本と、それからこれはかなり本格的な厚い
本ですけれども、『ECB欧州中央銀行』とい
う本も書いていただいております。それから、
皆さんもご存じだと思いますけれども、『東洋経
済オンライン』のほうにも毎週のように健筆を

振るっていただいています、本のほうはご専
門の一つであるヨーロッパのことについて書い
ていただいておりますけれども、最近『東洋経
済オンライン』で書いていただいているのは円
や、ドルの問題、為替の問題であります。

今回お配りしたレジュメを見てもわかるよう
に、為替の問題を論じるといふことは、結局日
本経済の置かれている状況、行く末を論じるこ
とと等しいと思いますけれども、為替について
は一時期、円安から円高に振れたときに、ほと
んどの専門家が140円割れて135円ぐらい
まで行くだろうと予測をしている中、唐鎌先生
は逆に、いや、そんなことはないだろうと。円
安方向を説いていらっちゃって、そのときは非
常に少数派でした。ただ、現在見ればわかるよ